

『颯と流』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

## 地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

- (1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。
- (2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。



「多様性」まずは、自分事として考えることが必要で、そのためにアクティブ・ラーニング  
や地域と連携した活動を通して「自分が何者か」を考えることから始めてみましょう！

## 第33回 山梨ことぶき勸学院祭



南都留教室  
合唱

10月18日(金)、YCC 県民文化ホールにおいて、「勸学院祭 楽しく 愉快地に 元気よく」をテーマに「第33回 山梨ことぶき勸学院祭」が開催されました。勸学院生の日常の研鑽や成果の発表及び若い世代との交流や芸術文化に触れることをとおし、心豊かな学院生活の向上を目的としています。南都留教室の合唱発表では、会場から拍手が起り、発表者と観客の一体感のある発表となりました。北都留教室の桃太郎伝説の寸劇では、個性豊かな演技者たちに会場が笑いの渦に巻き込まれました。異世代との交流では、韮崎工業高校の太鼓隊のエネルギーで雄大な演奏は圧巻でした。年齢に関係

北都留教室  
桃太郎伝説の寸劇



なく、学びをとおして自己表現や自己実現しようとする姿勢に観ている人たちは感銘を受けました。心の奥深くに届く、人間力の向上と人との繋がりを感じることでできる発表会でした。

2020年が皆様にとって素敵な年でありますように  
お祈りしています。



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。】

URL : <https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めて参ります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。 ※連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ TEL : 0554-45-7841

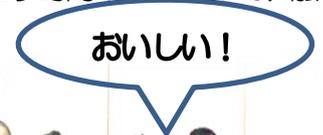
## 地域と共にある保育園づくり！ 境保育園 芋煮会



10月29日（火）、都留市にある境保育園（雨宮徹哉園長）にて芋煮会が行われ、園児、年長児の祖父母、地域のお年寄りや未就園児親子が参加しました。「くだもの列車」「虫の声」などの歌を雨空に負けないくらいの大きな声で歌っていました。その後、年長クラスの園児が「幸せなら手をたたこう」を歌いながら、会場にいるおじいちゃん、おばあちゃんとニコニコしながら触れ合い遊びをしました。最後に、子どもたちが育て収穫した里芋や大根がふんだんに入り、園長先生が味付けをした美味しい芋煮を皆で食べました。園児の一人が、「おばあちゃんといっしょで、たのしかった。」と感想を述べ、また参加した年長児のおばあちゃんは、「普段孫と過ごす時間が少ないので、触れあえる良い機会でした。」「家では野菜を嫌がるけれど、

今日は芋煮をおかわりしていて驚いた。」と嬉しそうに話していました。

先生方と園児のコミュニケーションが良くとれ、園児が自信をもって元気に歌をうたう姿が印象的でした。異世代交流の場として、また園児の様子や活動を地域の人々に観てもらい、理解してもらうことで園児が安心・安全に生活を送れる環境作りの一助になっている芋煮会でした。



## 山梨県私立幼稚園 PTA 連合会主催

### 吉田高校 親子でたのしくサイエンス



ピタゴラススイッチ

11月17日（日）、吉田高校（高保裕樹校長）にて、山梨県私立幼稚園 PTA 連合会主催の会員研修・交流事業として「親子でたのしくサイエンス」が開催され、幼稚園児とその保護者、高校生や教員など約150名の参加がありました。

まず、吉田高校の教員による「液体窒素による極低温の世界」「花火の炎色反応」「空気砲」の実験が行われ、その後、子どもたちは各ブースにて「液体窒素」「空気砲」「静電気クラゲ」「エアクラフト」「ピタゴラススイッチ」「鉄粉でつくる花火」「ペーパークロマトグラフィー」「シャボン玉」といった実験・工作を体験しました。日常生活の中にある「なぜ？」を考えること、例えば、静電気は普段「パチッ」としびれるものだけけれど、工作や遊びを通して静電気の捉え方が変わり、「おもしろい！」だけでなく「なぜ？」につなげていくことで、科学への興味を養うことが目的です。

ピタゴラススイッチのブースでは、子どもたちは一つ決めたビー玉に名前をつけ、そのビー玉がレールの上を滑るように動いていくのを追いかけていました。また、数カ所に作られたスイッチを押すとビー玉がどう動くかを固唾をのんで観察する子どもたちの視線は真剣そのものでした。一方、吉田高校数理部の生徒たちは、子どもの興味がどこにあるのかを探りながら、分かりやすい説明で子どもたちを楽しませていました。

異年齢の高校生と交流をしながら、親子で遊びを通して科学への興味や探究心、社会性を培うことにつながる活動でした。会場は子どもたちの「ワー！」「キャー！」「ダイナマイトみたい！」といった歓声が終始響き渡り、驚きと感動でいっぱいの時間となりました。



空気砲

## やまびこ支援学校 宮谷校舎お別れ会

11月16日（土）、やまびこ支援学校（小林勝校長）にて宮谷校舎のお別れ会が開催されました。小学部・中学部・高等部の児童生徒たちが思いの発表を行い、子どもたちは思い出多き校舎とのお別れを惜むとともに感謝の気持ちを表現していました。令和2年1月20日（月）から新校舎での学校生活がスタートします。

新校舎住所：大月市猿橋町桂台3-31-1



## 丹波小学校・丹波中学校・小菅小学校・小菅中学校

### 丹菅音楽祭



10月28日(月)、丹波中学校体育館において、第54回丹菅音楽祭が開催されました。音楽活動の成果を発表し、また音楽を通して自己を表現する喜びを味わい、仲間と共に楽しく演奏することを目的としています。当日は保護者・地域の方々・保育園児や、村長・教育長や村の教育関係者、また外部講師の先生が見守る中、丹波山村・小菅村の両小・中学生が合唱と合奏を披露しました。

丹波中学校では年間を通して毎週全校生徒とALTや教職員が音楽の練習を積み重ね、発表会では全員で「残酷な天使のテーゼ」と『カルメン』第一幕への前奏曲」を見事に演奏し、会場の聴衆を素敵な音楽の世界へと誘いました。

練習を積み重ねることで、一つの曲を完成させる難しさを克服した子どもたちは自信に溢れ、どの学校の発表も完成度の高いものでした。発表をする子どもたちの姿は生き生きとし、まっすぐ前を向いた凛々しい顔つきには頼もしさが見て取れ、聴いているものに感動と勇気を与えてくれました。今までの想いがすべて込められた心の奥底に届く音楽祭でした。

練習を積み重ねることで、一つの曲を完成させる難しさを克服した子どもたちは自信に溢れ、どの学校の発表も完成度の高いものでした。発表をする子どもたちの姿は生き生きとし、まっすぐ前を向いた凛々しい顔つきには頼もしさが見て取れ、聴いているものに感動と勇気を与えてくれました。今までの想いがすべて込められた心の奥底に届く音楽祭でした。



お兄ちゃん・お姉ちゃん  
かっこいい!

真剣に発表を聴く保育園児たち

### 手話でコミュニケーションを図ろう!

#### 上小っ子クラブ

#### 手話教室



上野原市では、地域の方々や学生ボランティアの参画を得て、市内の各小学校にて放課後子ども教室を実施し、子どもが地域の中で心豊かで健やかに成長できる環境づくりを行っています。その一環として、11月14日(木)、上小っ子クラブにて手話教室が実施されました。当日は県聴覚障害者協会からの講師、手話通訳者、上野原市の手話サークル所属のボランティアの方々から4年生から6年生までの11名の子どもたちに手話を教えていただきました。

まず、前回の復習として、グループになり自己紹介や好きなこと・得意なことなどを手話で表現しグループのメンバーに伝え、次に、手話アメリカンゲームを行いました。講師の先生が犬の手話をしたら、怖がる動作をし、象の手話では両隣の人が耳を表現するゲームで、だんだんとスピードを上げていき、瞬時に手話で反応をするゲームです。子どもたちは緊張しながら自分の番を待ち、上手く終えたときにはホッとしていました。また、子どもたちからの、「自動車の運転中にクラクションを鳴らされたらどのようにして知るの。」「コンビニで買い物するときはどうするの。」などの質問に講師の先生は丁寧に答えてくれました。参加した6年生の女子児童は、「楽しかった。わからないことも一つ一つ覚えられた。」と満足げに話していました。

手話がコミュニケーションのツールであり、人と人の輪を広げ、絆を強めるものであることを子どもたちは感じとっている様子でした。手話で会話をすることを学ぶことに加え、聴覚障害を持つ人々の生活の様子を知り理解することにより、聴覚障害者と共に生きる社会の実現に向けた基盤をつくる活動でありました。

上野原市では「障害者差別解消法」の施行をうけて、2016年に市民への手話の普及を目指すために「上野原手話言語条例」が施行されました。

コミュニケーションと情報獲得の大切な手段である手話を、音声言語と同様の「(非音声)言語」と位置づけました。



## 富士河口湖町 町長さんと語る会



10月15日（火）に「富士河口湖町をさらに豊かな町にしていくためには」をテーマに、「町長さんと語る会」が富士河口湖町役場町議会議場にて開催されました。町内の小・中・高・支援学校の児童生徒と顧問の先生、町長・教育長をはじめとする町の行政担当者など合わせて約75名の参加がありました。司会や進行、議長も児童生徒たちにより行われ、「ゴミ対策」「富士山の自然を守る活動」「町民と観光客の安全・安心な共存」「算数の授業での教員数の増加」といった内容の意見・要望・質問が子どもたちから出され、役場の課長さん方が子どもたちに分かりやすい

答弁をしていました。参加した生徒は、「町の課題を学校へ持ち帰り、これからの活動につなげ、また町の祭りや活動に積極的に参加していきたい。」と感想を述べていました。子どもたちの町への理解を深め、郷土愛を育むきっかけとなる、また未来を担う人材育成につながる大変有意義な時間となりました。

## 富士吉田市 市長さんと話す会



10月24日（木）に「美しい富士山のもと 心伝え合う富士吉田」をテーマに、「市長さんと話す会」が富士吉田市民会館小ホールにて開催され、市内の小・中・高等学校の児童生徒と顧問の先生、市長・教育長をはじめとする市の教育行政の方々合わせて約60名の参加がありました。司会や討論会の議長は児童、生徒たちによって行われ、「同じ富士吉田に住む児童・生徒として絆を深めること」「富士吉田市民として自覚を持ちながら、より良い街を創造していくこと」を柱として、「あいさつ」「環境への取り組み」「地域の人たちとの交流」「富士吉田市の

アピール」「オリンピックに向けて」といった視点から児童生徒による活発で有意義な討議が行われました。市長さんからは、人々の強い絆と助け合いの精神溢れる自然豊かで美しい街づくりへの熱い想いが伝えられました。子どもたちは富士吉田市の良さを再認識するとともに、代表の生徒が、「市民と観光客にとって魅力ある街づくりに向けてできることから行動していきたい。」と力強く決意を表明していました。

## 都留市 都留リーダーサミット



11月15日（金）に「都留市の未来 ～こんなまちに住みたい～」をテーマに、「都留リーダーサミット」が市役所大会議室で開催されました。市内の小・中・高等学校の児童生徒と顧問の先生、市長・教育長・教育委員をはじめとする市の教育行政の方々など合わせて70名程が参加しました。3つのグループに分かれての熟議は、児童生徒が司会者となり、付箋を模造紙に貼る方法で考えを出し合い整理しながら、「都留市の今の魅力」や「これからつくりたい魅力」について活発な意見交換が進められました。自分で考えて、他者との対話を通して考えを深め、合意形成を図っていく、まさに

思考力・判断力・表現力が培われる活動でありました。最後に上野教育長から、「話し合いは協力性やチームワーク力を培い人間関係を築くという意味で大切であるが、他校の人と躊躇することなく話をする姿勢が素晴らしかった。」というお話がありました。続けて、「都留市の魅力はみなさんのようなしっかりした若者がいることだ。」と話されると、子どもたちは目を輝かせ、未来の自分や都留市へ思いを馳せている様子でした。

## 第18回 一人一花運動 フォトライブラリー展

北都留地域教育推進連絡協議会では、「地域教育 明日の風」の活動の一環として「一人一花運動」を推進しています。北都留地区の全ての幼・保・小・中・高・支・大学に配布された花の種が、端正込めて育てられ、素敵な花を咲かせました。それぞれの学校の取り組みを収めた写真展が令和元年11月7日から12月13日まで北都留教育会館で開催され、多くの方に来場していただきました。



## 都留文科大学 キャリアデザインワーク 2019

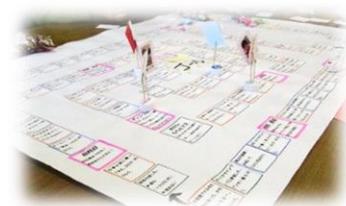


都留文科大学 原まゆみ特任教授が、特別な支援を必要とする中学生・高校生や若者を対象に、放課後デイサービス、就労支援ワーカー、高校・特別支援学校やフリースクールの教員等の協力を得て、授業の一環としてキャリアデザインワーク2019を実施しました。このプログラムは、子どもたちが新しいことに挑戦し自分の可能性に気づき伸ばしていくという経験をとおして、働くことについて考え、社会参



加や自立をしていく支援をすることを目指しています。年間6回、「自己紹介」「大人になることはどういうこと?」「社会人になるために」「職業体験」「大人への階段を一步いっぽ進もう」の内容で、子どもたちの実態や特性に合わせて大学生が企画・運営しています。

11月10日(日)は、前日の職業体験(ニンニク生産組合と定食屋、洋菓子店で実施)の振り返りを行い、写真を用いて発表することで経験を全員で共有しました。その後、学生により工夫された手作りの「人生ゲーム」を行い、仲間とコミュニケーションを図りながら、職業を比較検討し自分にとってふさわしい職業を主体的に選択、決定していく過程を楽しみました。子どもたちのペースに合わせて安心して一步一步取り組める活動内容で、楽しみながら自分の新たな可能性を探り、成長していくことができる活動でした。個々の参加者の特性や個性をよく理解し、気持ちに寄り添いながら必要に応じて支援をしている大学生の献身的な姿がとても印象的でした。



この活動は、子どもたちにとって人生や職業を考える機会となるだけでなく、地域の人と交流することで、地域の人に子どもたちを知り理解してもらい、どう関わっていくのがいいのかを一緒に考えてもらう機会にもなっています。更に、社会の中で子どもたちを支える大人たちがつながることで子どもたちにとってより良い環境づくりにもなる、全国でも珍しい活動です。

人生ゲーム:子どもたちの特性を考慮して関心があるものや職業体験の経験などを入れ、また就職や転職、昇給など今後の人生を想像しやすい工夫がしてある優れたもののゲームです。

## シオジ森の学校 ロケットストーブ作り&ランチ



シオジ森の学校(下澤直幸校長)は、水下ベニア商会作業場にて11月16日(土)・17日(日)の両日、「ロケットストーブ作り&ランチ」を開催し、4組の家族とスタッフ合わせて16名が参加しました。「ロケットストーブ」は燃焼効率が極めて高く、非常時にも役立つと言われています。その優れた熱効率から「エコストーブ」とも呼ばれています。



参加者は家族で協力して工具を使って作業をし、オイル缶から見事ストーブを作り上げ、ものづくりの醍醐味を満喫していました。昼食はロケットストーブで炊いた美味しいご飯を全員で食べ、自然や動植物など大月市の魅力について話の花が咲きました。

## 南北都留教育相談ネットワーク会議

令和元年12月4日(水)、第2回南北都留教育相談ネットワーク会議(会長:角田広美都留児童相談所所長)が南都留合同庁舎にて開催され、23名が出席しました。本会議は、「青少年の育成にかかわる、教師やカウンセラー、児童相談所・教育相談所の職員等が、それぞれの経験や専門性を生かしながら情報や技術を共有し合い、連携して学習会や相談活動・情報提供・研究活動を行い、公正中立な立場でのより効果的な地域の青少年支援」を目指しています。

今回は、やまびこ支援学校より、「特別支援学校のセンター的機能の発揮について」の報告がありました。また、児童相談所より、児童虐待の現状や保護に関すること、また子どもの自己評価が低いことが課題として挙げられ、自己評価を上げるために褒めることを励行し、自信を持たせるようにしているとお話がありました。それぞれの立場での関わり方や抱えている課題の解決に向けた意見交換や情報交換が行われ、各機関のネットワークの必要性を再認識する有意義な会議となりました。第3回は2月5日(水)に開催予定です。

まちづくりは人づくり、地域の子どもは地域で育てる !!

## 地域教育 明日の風 第2回理事会

北都留地域教育推進連絡協議会（会長：江口英雄上野原市長）は、令和元年11月22日（金）に北都留教育会館において「令和元年度第2回理事会・事務局・事業推進委員会議」を開催しました。

会議では、まず今年度の事業と会計の中間報告が行われました。事業の中間報告では、「明日の風 総会・教育講演会」や地域の教育資源を生かした「伊藤知治教士八段剣道教室」「シオジ森の学校」、地域に開かれた学校づくりの支援として「帝京科学の夏まつり」「チャレンジ！上高アニメシオン」等のこれまでの取り組みの具体的な内容、アンケートの結果、反省点および来年度への課題等についての説明がありました。その中で、小中学生と高校大学生が交流することで相互の成長につながっているとの報告がありました。令和2年度の定期総会等の日程については、例年どおり理事会を6月中・下旬に、総会は7月上旬の開催を軸に今後調整することとなりました。最後に、令和元年度の今後の予定についての確認がされました。地域の人材・環境を生かした取り組みをとおり、各種団体・機関との連携を図りながら、「まちづくりは人づくり・地域の子どもは地域で育てる」という『北都留地域教育推進連絡協議会』の活動に今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。



### 「明日の風」アスリート実技講習会

「明日の風」アスリートクラブ・北都留地域教育推進連絡協議会主催「明日の風 第5回アスリート実技講習会」が、11月30日（土）に大月市営陸上競技場にて開催され、小・中学生、指導者、保護者の約105名が参加しました。今回は通常のスタッフに加え、2012年ロンドン五輪女子4×100Mリレーでアンカーを務めた佐野夢加さん（都留文科大学特任講師）が講師をしてくださいました。

雲一つない青空のもと、ゲーム感覚でウォーミングアップをした後、短距離・長距離・幅跳び・高跳び・ハードル・ボール投げに分かれて練習を行いました。参加した小・中学生から、「試合前の緊張をほぐすにはどうしていますか。」「好きな食べ物はありますか。」といった質問がされ、それに対して佐野さんは、「適度の緊張感は大切です。笑顔でニコニコしていると緊張がほぐれるよ。」



「試合の後にご褒美として、アイスやお菓子を食べます。」というお話をしていました。子どもたちは積極的に佐野さんに話しかけ、この貴重な経験から一つでも多くのことを学び取ろうとしている姿は印象的でした。技術力やメンタル面の向上など、多くのことを学んだ講習会でした。

「第6回・第7回アスリート実技講習会」はそれぞれ2月22日（土）、3月7日（土）を予定しています。多くの方の参加をお待ちしております。



### 「明日の風」小林雅英野球教室

北都留地域教育推進連絡協議会では、令和元年12月7日（土）に上野原市桂川野球場において、大月市出身の元大リーガーで、2004年アテネオリンピック日本代表で銅メダリストの小林雅英氏による野球教室を開催しました。郷土出身のアスリートとの出会いを通して、子どもたちが自分の将来に夢や希望をもって生きていこうという意欲を育てることを目的としています。今年で19回目となる同教室には、大月市・上野原市のスポーツ少年団の児童や中学校の野球部の生徒、指導者、保護者など

約230名が参加しました。

今回は、投球練習に重点を置き、全ての子どもに親切、丁寧に指導をして下さいました。一人一人に合った、心にスッと入るような助言で、子どもたちの上達には目を見張るものがありました。小林さんからは、「夢を実現するために、ノートに書いて思い出し、継続して頑張ることが大切だ。」と教えていただきました。更に、「東京オリンピックでは野球に限らず選手を応援して欲しい。応援で選手は頑張れるから。」というお話がありました。子どもたちの代表が花束を手渡し、「今日やったことをこれからの練習に生かしていきたい。」と力強く決意を述べていました。